

<https://www.sekouya.com>

株

書

築工事

司

確

認

社

1. 適用範囲

- 1) 寒冷地および積雪地域を除く地域とする。
- 2) 本施工計画書は雨水排水用の各種雨樋を対象とする。

2. 要求条件

- 1) 屋根本体の耐風圧性能、耐久性能に準じた強度と耐久性を持ち、風雨に対して排水機能を損なうこと。
- 2) 屋根面および接続する壁面に對して、雨水を屋根面上に滞留させない排水能力を有すること。

3. 雨樋の種別・形状

1) 雨樋の種別、数量

場 所	名 称	形状・寸法	数 量
倉庫棟	谷樋 ()	W450 × H120	120m
	谷樋受け金物		14 力所
	落ち口		
	立て樋 (塩ビ)		
管理棟	樋受け金物	100	110m
	立て樋 (塩ビ)		52m
	受け金物		
車庫棟	ドレン	W120 × H100	4 力所 78m
	軒樋 (塩ビ)		25m
	立て樋 (塩ビ)		12m
	ます		4 力所
樋受け金物			
共 通	樋の継ぎ手		

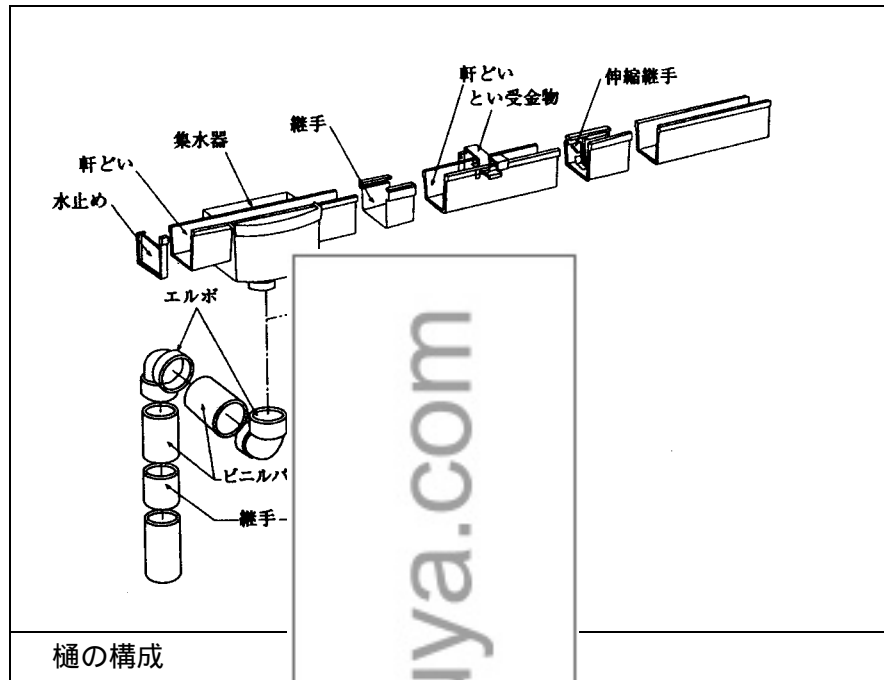
2) 製造メーカー

塩ビ製雨樋		化成株式会社
谷樋および金物		メタル株式会社
樋受け金物		工業株式会社
ルーフドレン		機材株式会社

4) 樋の納まり

<p>軒 樋</p>		<p>図面をコピーして貼り付ける。</p>
<p>立て樋</p>		
<p>谷 樋</p>		

<https://www.sekouya.com>



3. 材 料

使用する材料は下記の表の範囲内
承諾を得る。

として施工前に見本を提出し、監理者の

(1) 樋に用いる金属板（銅板を除く）

1) 金属板の規格

板の名称	材料の記号
溶融亜鉛めっき鋼板および銅	SGCC
塗装溶融亜鉛めっき鋼板および銅	SCG2
溶融アルミニウムめっき鋼板	CA2C
ポリ塩化ビニル（塩化ビニル）	S K 6744) SG
冷間圧延ステンレス鋼帯（JIS G3302）	SUS304 , 316
冷間ステンレス鋼板（JIS G3302）	SUS304 , 316
塗装ステンレス鋼板（JIS G3302）	SUS304
高耐候性圧延鋼材（JIS G3102）	SPA - C
アスファルトまたは樹脂被覆	

（注意）樋材は、屋根葺材との電食を考慮する必要がある。

2) 塗装鋼板及び被覆鋼板

樋に使用する塗装鋼板及び被覆鋼板は、両面に塗装又は被覆が施されたものとする。

3) ステンレス鋼板

樋に使用するステンレス鋼板は、JIS G3320（塗装ステンレス鋼板）又はJIS G4305（冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯）とするが、既製品等を使用する場合は承諾を得る。

(2) 硬質塩化ビニル樹脂 (JIS K6741)

- 1) 硬質塩化ビニル樹脂で成型してつくられた樋材は、JIS A 5706 (硬質塩化ビニル雨樋) の規格に適合したもまたは同等品とし、特記がある場合はその指定による。
- 2) 材料搬入時に管に表示されている製造業者名および種類及び管の呼び径、製造年月等を記録し監理者に報告する。
- 3) 樋の接着剤は同一メーカーのものとする。
- 4) 塩化ビニルカラー厚肉パイプ

サイズ	高耐候シルバー	
	VP	VU
75		
100		
125		

呼び径	高耐候ココア		高耐候クリーム	
	VP	VU	VP	VU
75				
100				
125				

https://www.sekouya.com

(3) ルーフドレン

- 1) 材質をJIS G5501 (ねずみ食い防止用) 製品は、日本鋳鉄ふたのものとする。

FC150) 又は3種 (FC200) とし、規格のJCW301 (ルーフドレン) によるものとする。

種		呼び径
ろく屋根用たて形		80 , 100 , 125 , 150
		75 , 100 , 125
ろく屋根用横形		80 , 100 , 125 , 150
バルコニー中継用	RJ - CA (ねじ込み式)	50 , 80 , 100
	RJ - CB (差し込み式)	50 , 75 , 100
バルコニー用	RJ - DA (ねじ込み式)	50 , 80 , 100
	RJ - DB (差し込み式)	50 , 75 , 100

(3) 接合材料

接合材料の選定には、樋が金属板の場合、リベットやねじなどは、屋根材と樋材の選び方と同様に異種金属間の電食を防ぐため、常に樋材に対して貴でなければならない。

(4) 軒樋および縦樋の受け金物

1) 軒樋受け金物およびたて樋受け金物は、樋に加わる荷重や衝撃に十分耐えうる形状寸法のものとし、樋材の耐候性、耐食性を確保する。受け金物は防錆処理を施した市販品を使用する。

形状寸法および材質、防錆処理

防錆処理：JISH8641（

ただし、足金物は溶融亜

2) 軒樋受け金物の間隔は1

の HDZ35 以上とする。

はステンレス製とする。


受け金物間隔は1.2m以下とする。

3) 樋受け金物の形状など

たて樋受け金物の形状		備 考
名 称	形 状	
		蝶番式バンド (ステンレス) ビス・ナット付
		キャップ付アンカー (つば付足) ステンレスおよび カラーコーティング
		アンカーナット (図は SUS) ユニクロメッキ ステンレス カラーコーティング

<https://www.sekouya.com>

カタログなどをコピーして貼り付ける。

https://www.sekouya.com

(6) 谷樋受け金物

谷樋受け金物は下表を標準とする。

取付の方法は特記に従う。

谷樋受け金物	谷樋の形状および断面寸法
谷樋の底幅 (mm)	
250 以下	- 3.2×50 以上
250 以上 500 以下	- 3.2×50 以上
500 以上 750 以下	- 6.0×50 以上
750 以上 1000 以下	65×65×6 以上
1000 以上 1250 以下	75×75×6 以上

(7) 補助材料

材質や防錆処理については、特記を要する。

取付なければならない。

1) 小ねじ

樋の取り付けに用いる小ねじは、JIS B 1101 (すりわり付き小ねじ) および JIS B 1111 (十字穴付き小ねじ) とし、ナットは JIS B 1181 (六角ナット) とする。小ねじの材質、防錆処理の方法、並びに形状寸法は特記による。

2) 木ねじ

木ねじは、JIS B 1135 (すりわり付き木ねじ) および JIS B 1112 (十字穴付き木ねじ) とする。木ねじの材質、防錆処理の方法、並びに形状寸法は特記による。

3) 金属線

樋の加工および施工に用いる金属の線は、表 3-1 による。

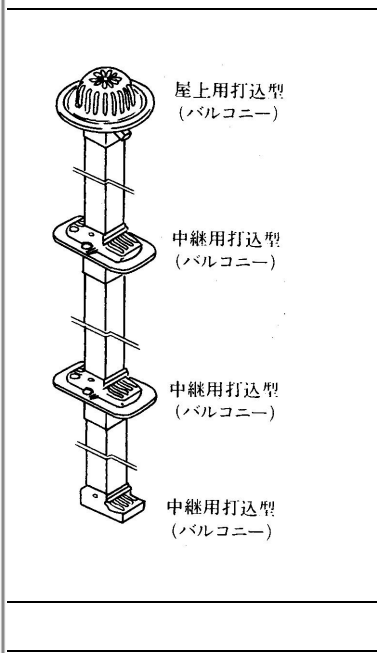
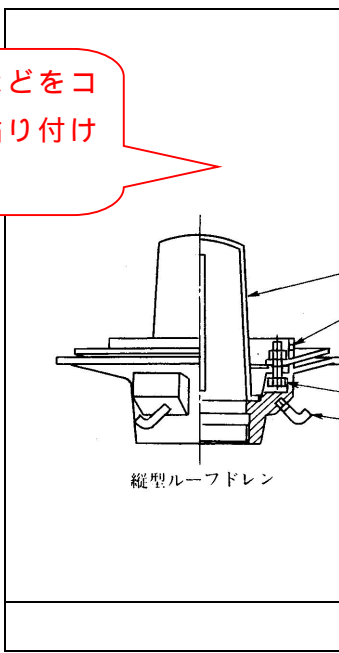
(8) ルーフドレン

1) ルーフドレンは、JIS A 5522 (ルーフドレン) に適合するものとする。

2) 詳細は特記による。形状から
さらにはベランダ用、庇用が

あるが、使用場所からは屋上用、中継用
である。

カタログなどをコ
ピーして貼り付け
る。



(9) 養生管およびたて管

1) 養生管およびたて管に用いる

亜鉛めっき鋼管
鋳鉄管
硬質塩化ビニル管 (JIS A 570)

(>道用亜鉛めっき鋼管) の SGPW
(>道用球状黒鉛鋳鉄異形管)
硬質塩化ビニル管)

(10) 鉛板および鉛管

コンクリートを貫通する部分
H 4311 (鉛管) とする。

4301 (鉛板) の PbP により、鉛管は JIS

(11) 防塵網

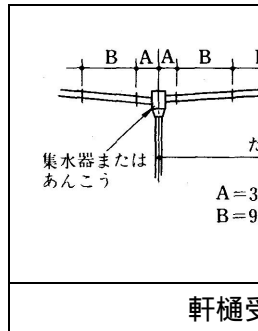
防塵網に用いる金網は、JIS G 3555 (織金網) のうち 8 メッシュ程度、線径は 0.7mm 程度
のステンレス SUS 304、または同程度の銅網とする。

https://www.sekouya.com

4. 軒樋の加工と取付け

(1) 硬質塩化ビニル樹脂製軒樋

- 1) 樋受け金物は、所定の流れ勾配をとり、間隔 600mm 内外に通りよく取り付ける。
- 2) 接続した樋の 1 本の長さは 10m 以内とし、あんこうまたは集水器部分で、伸縮を確実に吸収するようにする。10m を超える場合は、エキスパンション継手を設ける。
- 3) 樋と受け金物は、メーカーの仕様にしたがう。伸縮挙動を阻害しない程度に固定する。
- 4) 集水器の心と、その両側に受け金物を設置する。受け金物の間隔は 70mm 以下とし、距離が大きすぎると、樋が折損したり、集水器を損傷させる。



- 5) エキスパンションは 10~15mm 以内とする。
- 6) エキスパンションのクリアランスは、軒樋の継手や曲がりのメーカーの用意する接着剤を併用する。

(2) ステンレス製角軒樋

メーカーの仕様にしたがう。

5. たて樋

(1) 硬質塩化ビニル樹脂製たて樋

- 1) 継手は、専用の継手部品で押し込み接続し、エキスパンション継手を有効に取り付ける。
- 2) 塩ビ管の JIS 規格は 3 種類あり、この規格には、肉厚の大きい VP 管と、使用圧力の小さい VU 管とがあり、VP 管は VU 管の 2 倍の肉厚となっているので、管径に応じたものを使用する。
- 3) 樋の接続は専用の継手を用い必ず接着剤を併用する。エルボやチーズを用いる場合も同様とする。

https://www.sekouya.com

- 4) 下がり止めは塩ビ製樋の場合、受け金物の内径とたて樋の外径の差がほとんどなく金物を締め付けて取り付ける。
 下がり止めを使わない場合、受け金物の径を樋の径とはば同寸とし締め付けて取り付けるが、締め付けが強いと樋にひずみが生ずるので注意する。

(2) 鎖たて樋

鎖たて樋は、垂直に保ち、上部の取付けは、材質などは特記による。

堅固に取り付ける。鎖たて樋の形状、寸法は特記による。

(3) 集水器、あんこう

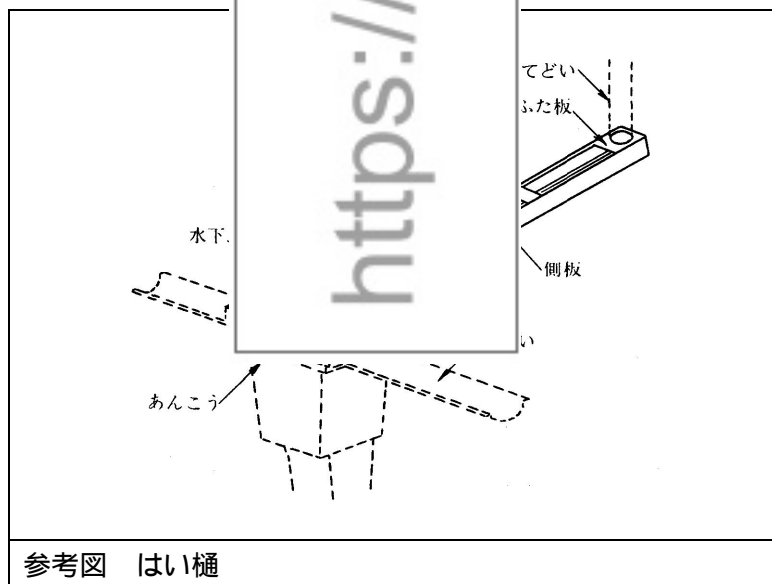
- 1) 硬質塩化ビニル樹脂製葉水取付
 硬質塩化ビニル樹脂製集水器
 取付けはたて樋もしくは呼び樋に接続して行う。

は特記による。
 に接続して行う。

(4) 這い樋

- 1) 硬質塩化ビニル樹脂製はい樋
 硬質塩化ビニル樹脂製はい樋に接続する。
 2) 軽微なはい樋は、たて樋を流すものは別途につくる。
 3) 大型のはい樋は、受け金物の取付け間隔は 1000mm 以下程度とする
 4) 屋根とはい樋は、受け金物の取付け間隔を決定する。

、水下部分は集水器またはあんこうに接続する。
 のものは別途につくる。
 い樋の受け金物は、はい樋の取付け間隔を決定する。



参考図 はい樋

(5) 寄せます (たて樋や呼び樋などを複数本まとめて受けるますを「寄せます」という)

- 1) たて樋と組み合わせて用いる寄せますは、集水器に準じてつくる。
- 2) 取付けは、受け金物を用い堅固に行う。

(6) 養生管

- 1) 養生管は、たて樋に準じて作る。
- 2) 材料は、特記がなければ亜鉛めっき鋼管または硬質塩化ビニル管などを用いる。通常養生管は高さ 2m 程度とし、上部は開口部を蓋し込んで納める。
- 3) 養生管が金属管の場合は、開口部を蓋し込んで納める。
- 4) 養生管の受け金物は、たて樋の受け金物と同様であり、2m の場合 3 個の金物で取り付ける。

または硬質塩化ビニル管などを用いる。通常養生管は高さ 2m 程度とし、上部は開口部を蓋し込んで納める。下部は排水溝や会所のふたに差し込んで納める。

要であり、その間隔は、養生管の高さが 2m の場合 3 個の金物で取り付ける。

(7) ます

ますは、集水器に準じてつくる。ますの上部は、後日の掃除ができるように可動式のふたを付ける。

骨を入れる。ますの上部は、後日の掃除ができるように可動式のふたを付ける。受け金物を用い堅固に行う。

(8) 尾垂れ

軒樋を集水器やあんこうの中へ排水させる場合は、その左右の樋の端部に尾垂れを付ける。尾垂れは、排水口の中心から 100mm 以内とする。

排水させる場合は、その左右の樋の端部に尾垂れを付ける。尾垂れは、排水口の中心から 100mm 以内とする。

(9) 防塵網

集水器やあんこうの落ち口には、防塵網を設ける。防塵網は脱着可能として、掃除の際の便を計る。また、網の目の大きさがあまり小さいと塵埃が付着しやすいので、やや大き目とする。

<https://www.sekouya.com>

6 . 谷 樋

(1) 谷樋本体

谷樋と屋根の接合部分からの漏水は、即、致命的な雨漏りとなるので、慎重に施工する。
また、寒冷地域や積雪地域では一般地域と異なる施工法をとる。

- 1) 谷樋は、長さ方向は 1 枚の材料で構成する。谷樋の本体は、落ち口と落ち口の間にエクスパンション間を 1 枚の板で、所定の形状寸法に加工する。
- 2) 継手は、60mm 程度に重ね合わせ、ボルトで間隔 50mm 程度、2 列を千鳥に留め付ける。継手部分には、エクスパンションリング材を入れ、塗装板以外をエクスパンション材で取り付けとする。
- 3) 谷樋の本体は、受け金物に取り付ける。

軒先に



ある谷どい



にある谷どい

(2) 谷樋受け金物

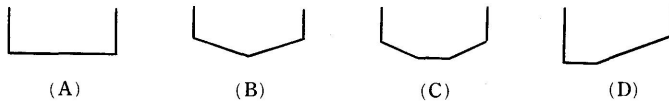
- 1) 谷樋は、後日のメンテナンスが容易になるなど、予想外の荷重や衝撃が加わっても、洗濯板状になり雨水や塵填、土砂が溜まることの原因になる。
- 2) 受け金物は、一般の軒樋受け金物と同じに取り付ける。
- 3) 谷樋は谷樋受け金物の上に置く。必ず吊子止めして温度伸縮が可能なようにする。塩ビ鋼板や耐酸被覆鋼板を用いる場合は継手や加工部品は、補修用塗料でタッチアップする。
- 4) 受け金物は、表 14 . 3 による。間隔 500mm 以下に取り付ける。勾配は、1 / 200 以上とする。

5) 板のひずみによる底面の凹凸や下地の不陸などをふせぐため、谷樋底幅を偏平で広くしない。(流水の勢いが弱くなり塵攻や土砂は雨水といっしょに流れなくなる)

6) 通常谷樋の勾配は、1 / 100 ~ 5 / 100 程度であるが、たて樋間隔や下地の構成に大きく影響を受けて緩勾配となることが多い。少なくとも 2 / 100 は確保する。

7) 勾配が小さい場合は、図 14 . 25 の (C) または (D) とする。

図 谷樋の形状



(A) は、底幅が偏平な例で、
 (B) は舟底形で (A) よりも
 落ち口部分の加工が困
 (C) は (B) の変形で、この
 (D) は解説図 14. 27 の軒先
 雨水が流れるので好ま

くない。
 ので、流水の面からはよいが、
 容易となる。
 け形状のもので、(C) と同じ状態で

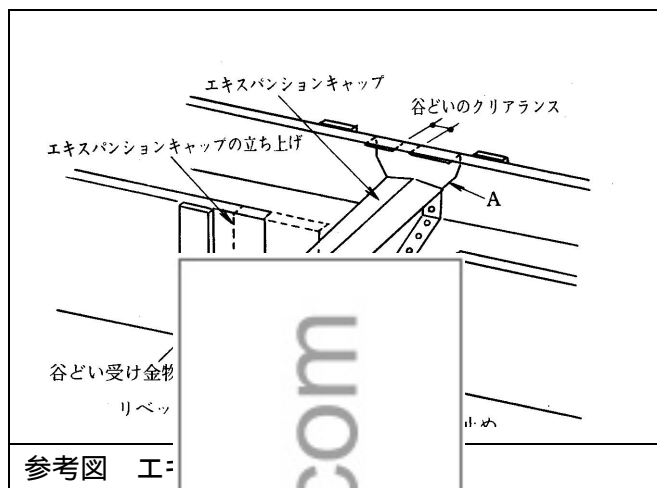
参考図 雨水のはね返り状態	
<p>(A) の場合 雨水がはね返ると、しぶきか って室内に浸入する恐れがあ</p>	<p>場合 やがて野地板中を毛管現象によ</p>

https://www.sekouya.com

(3) エキスパンション

- 1) 谷樋は、たて樋とたて樋の間
 ンションを設ける。
- 2) エキスパンションは、あら
 通常クリアランスの量はお。
- 3) エキスパンションキャップは、A の部分を切断せず折り返し、谷樋の側面に沿わせて立ち上
 げる。もしこの部分に鉄を入れると漏水の原因となる。

5 が 15m 以上になる場合はエキスパ
 決定しクリアランスを設ける。



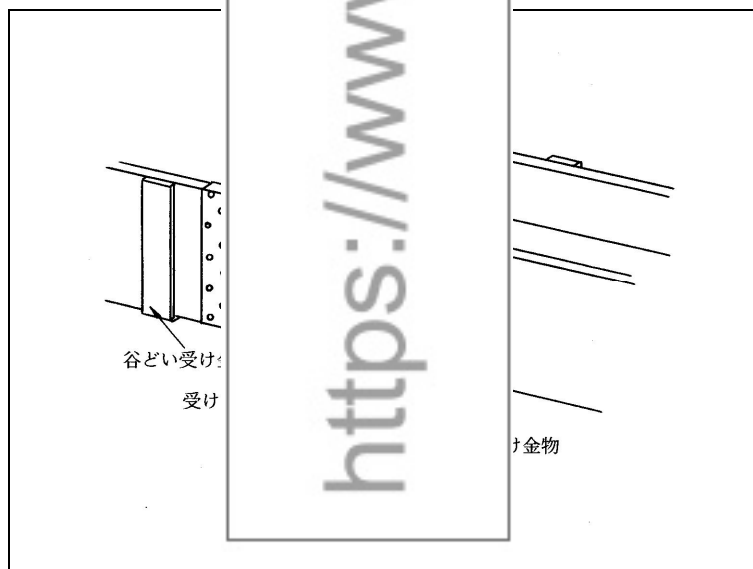
- 4) 谷樋の水上端部に水止板を、
- 5) エクスパンションキャップは、
- キャップおよび水止め板は、
- となる場合は、両者間に
- 込み、電氣的に絶縁させ

付ける。
 み込んで取り付ける。エクスパンション
 にお、やむを得ず異種金属の組合せ
 セイルム（厚さ0.5mm以上）を挟み

(4) その他

1) 落ち口

落ち口には必ず防塵網を付



2) 寒冷地域や積雪地域の谷樋

寒冷地域や積雪地域で谷樋を設けることは少ない。
 谷樋を設けることは特別の工夫が必要となる。

<https://www.sekouya.com>